

令和7年度第3回大阪府国土利用計画審議会部会 議事要旨

日時 令和7年12月19日（金） 10:00～11:18

場所 公益社団法人 国民會館 小ホール
（大阪府中央区大手前2-1-2 国民會館大阪城ビル12階）

出席者 【部会委員】 嘉名部会長（大阪公立大学大学院教授）

岡井委員（立命館大学教授）

大庭委員（京都大学大学院教授）

小川委員（大阪公立大学大学院教授）

武田委員（大阪公立大学大学院准教授）

牧委員（京都大学教授）

【部会幹事】 大阪都市計画局 計画推進室 牛山計画調整課長

大阪都市計画局 計画推進室 木下計画調整課参事

商工労働部 成長産業振興室 野口国際ビジネス・スタートアップ支援課総括主査（代理）

環境農林水産部 みどり推進室 樋口森づくり課課長補佐（代理）

環境農林水産部 農政室 田中整備課長

都市整備部 事業調整室 福永事業企画課長

都市整備部 住宅建築局 古澤居住企画課長

【事務局】 大阪都市計画局 計画推進室 計画調整課

土地利用計画グループ 油野課長補佐、鈴木総括主査、石井技師

まちづくり調整グループ 千葉課長補佐

議題（1）～（4）について、資料2～5をもとに事務局（土地利用計画グループ）から説明を行った。委員からの主な意見（一部、計画等の重要方針に関する府回答含む）を以下に示す。

■議題（1）「国土利用計画策定有無判断のまとめ」（資料2）

- まとめ方そのものには異存はない。P.3の1つ目の黒ポツで、「国土そのものである区分」とあり、自然物だけをもって国土そのものと言ってよいのか疑問なので、表現の修正を検討願いたい。
- 今の話に重ねて言うと、ポツの1つ目で、「一律に面積目標を定める意義は小さい」とあるが、下のポツでは「役割を終えた」という言い方をしており、ちょっと意味合いが違う。いろんなものがあるのに画一的な面積目標は効果的でないといった意味合いだと思うので、併せて検討頂いたらいかかと思う。

■議題（2）「大阪府の土地利用状況」（資料3）

- 面積目標を廃止し、次回の計画からは、数値目標の代わりに質の高い土地利用を目指すという内容になるのかと思う。（農地転用状況について）図に落とし込んで頂いてはいるが、

いい転用かそうでないか判断がつかない。せっかくここまでやってくださったのであれば、こういう傾向があるというくらいは分析して頂き、こういう転用はそれほど問題ではないが、こういう転用はなるべく抑制するように監視するといったことまで（計画に）書けるといいと思う。

- 今回用意頂いたデータに、市街化調整区域の色は塗っておいた方がいいかもしれない。南河内とかは（農地転用の）件数が多いが、多分元々市街化区域に囲まれた調整区域いわゆる穴抜き調区が多く、その中に幹線道路が通っているみたいなパターンが非常に多い。元々の線引きがよろしくないという話もないことはないが、どちらかと言うと平らな土地が多いというのか、農地としても非常にいい場所が多くて、そういうところに道が広がって市街地ができて、こういった現象が起きているという気はしている。そういう意味で、これから線引きの在り方みたいなことをこれらの市町村が考える際に、立適と合わせてかもしれないが、優良農地の保全みたいな話とも絡めて検討頂くという意味では、もう少し詳しい分析があってもいいかと思う。
- データセンターについて、首都圏で非常にいろいろと問題になっている。立地のマーケットが関西に移りつつあると聞いており、おそらく立地が増える。懸念点が二つあり、一つはまさに P. 36 で示して頂いたように、複数の用途地域で立地できるということ。これはデータセンターが事業所として扱われる場合もあれば、工場として扱われる場合もあり、商業地域や住居地域でも立地できるという状況で、どういうふうにコントロールするかという話。もう一つは、データセンターはクラスター化しやすいと言われており、（資料で説明があった）彩都の話もそうだが、同じような場所でどんどん増えていくだろう。これが、土地利用や、管轄外かもしれないが電力需要に大きく影響を及ぼすと言われている。現状まだ問題が起きていないとはいえ、今後可能性が十分あるという認識のもとモニタリングする必要があると思っている。
- （データセンターへの意見に関して）現行法は、おそらくこういうことを当初から想定しておらず、状況を見ながら、土地利用をいかにコントロールしていくか考えることも必要と思う。
- 最近、農地の上に太陽光パネルを乗せるのが OK で、土地利用上は農地だが、下の野菜が枯れていても農地は農地という話もないことはないということ。そういうのも多分、おそらく当初は想定されていなかったというようなことがあって、ルールで縛る、縛れないという話は置いておいて、土地利用が今どういう状況か見ておくことは、この計画の役割ではないかと思う。
- 資料の今後の使い方にも関わるが、どのように区分してこの凡例がつくられているのが分かる方がよい。また、農地と森林で元データが違いため、仕方がない面はあると思うが、区分した内容を取りまとめて評価するときや、計画の議論に用いるときには、同じ区分を用いた方が分かりやすいのではないか。多くの部局が集まって一緒に計画を検討する意義として、共通のデータを整えることの重要性もあると感じた。

■議題（３）「大阪府土地利用基本計画改定 骨子案たたき」（資料４）

- 一つ目は、「計画等の位置付け」の図について、総合計画に代わるものとして「副首都ビジョン」等との整合を図ることを表現するために、片方向の矢印ではなく両方向の矢印でもいいのではないかと思います。

二つ目は、「課題」のところの二つ目で、自然環境と自然資源がどう違うのかを教えてください。

最後は、「基本方針」の「将来像２」、「環境負荷が少なくみどりを生かした」では「生きる」と書いているが、「基本理念」のところでは「都市基盤ストックなどを活かした」で「活用」の「活」という漢字を書いている。「生かした」という漢字を用いることが適切か気になった。併せて、この項目は従来「都市の格を高める魅力ある都市空間」になっていたと思うが、環境負荷が少ないことやみどりを生かすことも大切と思うが、もう少し「魅力ある都市空間の創造」というニュアンスもこの方針に含められていてもいいのではないか。

⇒（事務局回答）

まず一つ目は、「副首都ビジョン」は大阪府政全体の方針ということで、言わば政策級と考えており、「土地利用基本計画」は「基本計画」ということで、一つ下の行政計画の位置付けになる。従って、（双方）齟齬のないように作ってはいるが、こちらの計画が「副首都ビジョン」などを踏まえて作っていくというようなところで片矢印にしている。ただ、内容の整合を図っていくという意味合いを持たせたいため「整合を図る」という文言にしている。

二点目、「土地利用の課題」の「自然資源」は、天然の環境ではなく人の手が入ったことにより生み出された環境資源、例えば農業によって生まれた農地、林業で生まれた森林、山林なども含めて保全するという意味合いから、この表現にしている。

次に「将来像２」の「基本方針①」のところと思うが、自然環境と人工的環境も含まれ、その中で育まれるものとして環境という生命なるものがあり、活用するだけでなく生命として生かしていくというニュアンスがあり、この文字選びをしている。また現行計画の「魅力ある」というフレーズを今回なくしているが、意義が小さいとは考えていないので、今後計画素案を作成していく際に、より良い言葉の追加などを考えられたらと思う。

- やはり人口減少が長いトレンドで続いていくことを考えると、（大阪府は）総合計画を作った方がいいのではないかと改めて思っているということを申し上げておきたい。短期的な計画だけでやっていると、土地利用との整合はなかなか図りづらいのではないかと思います。

あと「生かす」という言葉は、「活用」の「活」という字の「活かす」というのは常用漢字にはない読み方で、行政用語として使わない自治体もあるので、確認されるといいと思う。

- 大変細かいことだが、「課題」の気候変動や自然災害、土地管理水準のところ、気候変動のときには「緩和」と「適応」を使う。「緩和」が「ミティゲーション」で「適応」が「アダプテーション」。「アダプテーション」がいわゆる防災に対応しているが、「緩和」という言葉をここで使うか、もしくは被害を止めて、あと減らすということで「軽減」としてもいいと思う。気候変動の分野と自然災害の分野であまりまだ言葉遣いがそろっていないところではあるが、検討頂いたらと思う。

- 今三本柱にしているのがちょっと苦しいのかもしれない。例えば素直に五本柱くらいに

してしまうというのものもあるかもしれない。先ほどの自然資源と自然環境の話も分けた方が整理しやすいということかもしれない。大きく変えろという意味ではないが、文言については、分野が違くと用語が異なるという話を調整するのが、まさにこの土地利用基本計画かなと思う。

- 「将来像1」の「基本方針①」で「大阪にふさわしい」とあるが、何か意図があるのであれば説明頂きたい。特にないということであれば、何かもっと生活利便性を高めるというような文言でもいいのかと思った。

⇒（事務局回答）

大阪の都市形成として、これまでいろんな変遷はあるが、大阪湾があり、都心部の大阪市がある。そこを中心として環状網、放射網が形成されており、湾岸であれば同様の都市形成というのは育ちやすいが、大阪はよりその特性があるということで、その都市構造を生かしたいということで「ふさわしい」と記載している。

- 「基本理念」のところには「質の高い自然・文化・歴史的資源」を書いているが、「課題」のところには「文化・歴史的資源」の部分が出てこないのがちょっと残念だと思っていて、「課題」の二つ目の「自然環境・自然資源」では自然的なものだけを意識しているように答えがあったと思うが、ここで「地域資源」だとかであれば文化・歴史的な資源も含まれるのかなと思う。

■議題（４）「今後のスケジュール」（資料５）

- 2月に親会があり、委員の皆さまも出席されると思う。その際にまた補完する意見などがあればお願いしたい。

■総括

- 資料2については、P.3のポツ一つ目の文言を検討頂いてはという意見があった。

（資料3の）土地利用の状況については、非常に興味深い資料であるということを委員の皆さまからも意見を頂いたが、その上で、さらに分析を深めて頂いて、どのような状況にあるのかというようなことも加えることや、あるいは、これをどのように活用していくかというところまで少し出てくるといいのではないかという意見を頂いた。どうやって計画に落とし込んでいくのかというところを検討して頂ければと思う。土地利用転換の区分について、農地と森林で異なっているのを何か合わせてはという意見も頂いた。

資料4では、主に「課題」や「基本方向」のところで、言葉の使い方（用語）などそれぞれの専門の立場から意見頂いたので、少し全体を見直すことや調整をして頂きたい。